

光の子

発行／社会福祉法人光の子どもの家
編集／光の子 編集委員会
〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
TEL／0480-72-3883
振替 東京3-128022



きれいに敷かれた枕木の歩道とクローバーの中庭

施しをする時には

(マタイ・七・一一四)

理事長 福島 勲

ユダヤの律法は六百いくつかの箇条から成りその約三分の二が、「…してはいけない」という戒であり、三分の一が「…しなさい」ということである。

「…せよ」ということが少いが、考えようになれば「…する」など」ということの反対のことは、「…せよ」ということでもある。してはいけないことを平気でやるべきではないのに恥じらうこともないわれわれである。

イエスは、人に知られずかくれたところでよい施しをせよとすすめられる。人にほめられるため、人気とりや自分の利益のために、自分の前で大きい音でラッパを吹き鳴らす。よなことはするなど戒められる。象や照準がこの世の人である限り施設を設立する、言うまでもなく、気の毒な子どもたちへの奉仕である。

右の手のすることを左の手に知ら奉仕である限り、ひそかに行い、てくる。

ここでイエスが「隠れた事を見

となり、祈られていただき、財も労力も献げていただいて力を添えな」ということの反対のことは、しなければならないことが、できないのに恥じらうこともないわれわれである。

ここに一つの矛盾が起これ、痛みを感じる片隅で人知れず奉仕しよう業を続けたいと願う反面、そのことのために、多くの人に知つていただかなければならぬ。

はなやかPRを上手にやることが出来れば、この世では時の波に乗り、人気的となり衆目をあつめて豊かな潤いを得る。

キリストの言葉に従うとき、対象や照準がこの世の人である限り損をしたり、遅れをとったり、とり残されたり、疑われたり、愚鈍な者と笑われたりすることが起つ

千曲川岸から冠着山へ向つてせり上る急斜面に拓かれた無数の小さな棚田群は、いわゆる田毎の月で名高いが、私にはそういう風趣より、嘗々とこの千枚田をつくり上げ、また姥捨伝説を生みだした農民たちの労苦と貧困のさまが思われた。姥捨に入る前に見た修那羅峠の石仏群の印象が鮮烈だったこともある。修那羅の石仏たちもまた、農民の貧苦と怨念をさまざまと刻んでいたのであつた。

史家の研究によると姥捨の風習はこの地にはなく、伝説は架空のものだという。だとしても、それが農民の貧しさから生みだされたものであることには変りがなかろ

駆りたて、そのための戸隠ドライバーの無謀な造成が原因となって、山裾にひっそりと余生を送る老人たちを一呑みにしたのである。他の地域の住民には避難命令が行きわたっていたのに、老人ホームにだけはなかつたという。そこまでは及ばないと判断した、といふのが当局の弁明だが、もしそこにボス政治家の邸宅でもあつたとしたら、それで済ましていただろうか。老人ホームの存在は、このとき当局の意識から完全に見捨てられていたのである。

むかし、貧しさが石仏や姥捨の伝説を生みだした。が、実際には貧しさゆえに老人を捨てたりはし



炎熱地獄の枕木敷設労働奉仕

エッセイ

姥捨に思う
俳人黛執

九十九

芭蕉は、元禄元年の仲秋の月を
ここで觀てゐる。「佛は姨ひとり
なく月の友」の足跡を訪ねること
も私の目的の一つだったが、それ
以上にむかし深沢七郎の小説「樽
山節考」で受けた衝撃が大きかつ
た。

姥捨からは千曲の流れにかかる
善光寺平が遠望できた。実はちよ
うどその頃、その善光寺平では大
きな山崩れが起り、ある老人ホー
ムが押し潰されていたのであつた
そのことを知ったのは、宿へ帰つ
てからであつた。

なかつた。いま、繁栄があたらし
い姥捨をつくつてゐる。豊かさが
老人を見捨ててゐる。恐しいこと
だ。その恐しさの中に老人問題や
福祉の原点が見えるような気がす
る。

ひかりのこ

りしていました。3軒あわせて10人の子どもたち、ここでの生活にすっかり慣れてきたようです。

「ただいま！仙道さんち、もうおやつなんだって。きょうのおやつなあに？」元気よく帰ってきた原田家の3人、10月11日で3ヶ月たちました。ずっしり重くなつたTくん。思いがけない言葉に、ドキッとさせられる毎日です。「おこんないで！」「やさしくして！」などと注文するようになりました「ちょっとまってて」は最近のお得意の言葉です。「Tくん、顔あらったの？」「ちょっとまってて」「こはんよ」「ちょっとまっててね」どこで覚えたんだろう、と思つたその日の入浴中、「ちょっととまつてて」と自分で言つていました。たつた3人の子どもたちさえずいぶん待たしているようです。

その一方、「〇〇してね」「しない」とあまのじやくの自己主張。「もう、反抗期なんだから!」と言ふと、「はんこうきじゃない」と言いしかえしてきました。食欲旺盛の秋。Tくんの好物は、ブドウと、そしてタクワーンです。食事中足が横の方へむいてしまったり、くにやくにやして、「タコ!」と言われてしまします。はじめの頃は涙をうかべていましたが、今では「タコじゃなーい」とはりきつているTくんです。

先日、地元、原道小学校の運動会に招待され、未就学児の「旗とり競争」に参加しました。とっても楽しみにしていましたが、初舞台に緊張してしまい、足が思うように動きませんでした。日頃ワンパクMちゃんも意外に内弁慶なのかも知れません。毎週日曜日は東大宮教会にいっています。「かみさま、ごはんを食べたくても、食べられないお友だちを助けてください」として休みの保母のこととも、「お守りください」とおいのりしてくれる優しいMちゃんです。

「夢を語れる保母でいたい！」と、豊かな経験をもつた保母さんが言つていました。3日、3ヶ月そして3年、今度は3年先に焦点をあわせていくらうと思います。

野を少しでも拡げて夢を語れる子どもに育てたい。多くの課題を前にして、思いえがいています。

かをゴシゴシ洗うのが、とってもじょうずです。寒くなつてできなくなつた大好きなおみずあそびがおふろにかわったのかもしれません。あとは、野菜ももっと食べられたら、と課題は、ねがいはつきません。朝から「野菜いため」だけたりすると少々気が重くなります。ちいさなニンジンやつと口に入つた。と思つたら「モグモグ、カミカミ、ゴックン」と、おなかに入るまで根くらべの毎日です。でも、いい顔になつてきました。かがやいてるMちゃんです。

おねえさんのMちゃん、なんとなくスマートになつたかな、と思つたら、たてに、ぐんと伸びたためでした。9月9日は6才の誕生日。原田家に全員、総勢23名招待し、手巻ずしと3個のバースデーケーキでお祝いしました。みんなからのお祝いのメッセージ、そして、すてきなプレゼントをいただ

となりの「佐藤家」のTちゃんが「おじやましていいですか?」

入所第一号 2

現場から

会にきてくれた田口は、おふろの水をきしむれせいのはいの音でした。二んじの誕生日はもう小学生で

き
しきれせいかいの夢でした
こんどのお誕生日はもう小学生で
す。友だちをたくさんつれてこれ

会にきてくれた日には、お父さんはいつしょに入ります。いつの日からか、あんなにいやがっていた洗

現場から
入所第一号2 竹花信恵

(八月十五日)
(十月十五日)

八月十六日、柏教会の西野さん、何かお手伝いをしたいと来訪。国鉄から一本二五〇円で払下げられた枕木二百本の構内敷設をこの日から始める。

一本の重量が百五十キロもある枕木を、溝を掘り、でさるだけ平らに約三分の一程を埋め歩道を造ります。炎天下の重労働に汗でビショぬれになり男子職員といつしよにワイワイ働きました。西野さんは翌日帰られたが職員は毎日数時間ノルマを決めて下さる。また設計士グループの増田さん兄弟、高橋、中川、馬場さんたちや鈴木久男さんなども数日汗を流して下さる。九月一日には見事な歩道が完成しました。感謝。八月二十日、入所後一ヶ月を経た子どもたちの様子も大体わかつたところで、来年三月までに、こ

春には全職員の願いを超えた成長を遂げられますように。

九月二日、昨日、野菜や古着、オモチャなどを地元の人々がご寄り下さり、小野区長さんから多額のご寄付をいたしました。子どもたちと夕食を共に楽しめ一夕を過ごしました。ありがとうございました。

九月四日、増田設計士のご厚意で降ればぬかるみ、照れば砂ぼこりの構内、園庭にクローバーの種子の吹付け作業。朝夕たっぷりの水まきを欠かさず、今は鮮やかな緑が心を和ませています。

同日、第三回理事会。

九月十二日、養護目標で確認された、幼稚園通園を実現するため

に、この町唯一の大利根藤幼稚園に入園願いに伺う。快諾をいただき、二年保育二名。年長組一名の入園準備を始める。

九月十四日、ボイスカウト票の流れを思うとき、この現実をふんだんに問題を解決し、こんな子に成長して欲しいという願いを担当職員が、保母会議で話合い、整理し

て個別の養護目標の作成を始め、

む。翌日十五日には小雨のなか園

まだまだ困難な状況が予想されますが、まさしく無からもたらされ

た現実に心から感謝と感動を新たにさせられます。

○十月初め、建

築写真家興水進氏が泊りがけで光オモチヤなどを地元の人々がご寄り下さり、小野区長さんから多額のご寄付をいたしました。子どもたちと夕食を共に楽しめ一夕を過ごしました。ありがとうございました。

九月二日、原道小学校運動会。支援の湯河原町の薫、小林、戸辺、会いに刺激され放しの二日間で水谷さんたちが開設のお祝いに、たくさんのご寄贈ありがとうございました。

十月一日、原道地区運動会。

十月十三日。原道地区運動会。会。全員で参加して楽しみました。

十月八日、第四回理事会。

今関、岩崎、館山が出場 大奮斗。

十月十日、大利根藤幼稚園運動会。全員で参加して楽しみました。

十月十三日。原道地区運動会。

○「光の子」も三号を重ねました。

特集で載せておりました担当保母のとりくみの報告を「現場から」というシリーズに整理しました。

私たちの仕事の内容をできるだけ共有していただき、ご理解を得たいとの思いからです。

○やつと子どもたちも自分の位置、場所が決まり自分の表現がつくり出す生活の流れを思うとき、この現実をふんだんに問題を解決し、こんな子に成長して欲しいという願いを担当職員が、保母会議で話合い、整理し緒させていただき、ゲームを楽し

反 射 光

○麗らかな小春日が園庭に

に、この町唯一の大利根藤幼稚園に入園願いに伺う。快諾をいただき、二年保育二名。年長組一名の入園準備を始める。

九月十四日、ボイスカウト票

の流れを思うとき、この現実をふんだんに問題を解決し、こんな子に成長

して欲しいという願いを担当職員が、保母会議で話合い、整理し

緒させていただき、ゲームを楽し

と疑つてしまふことがしばしばで

二ヶ月。はじめてのクリスマスの準備を始めます。学童の場所を虚

す。さまざま人々と出会いました。

にしたままで。乞う、御支援(G)